

第2学年「生活」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

成果 ○生き物や身近な環境への関心が高い。観察の視点が明確であれば、よい気付きができている児童が多くいる。

課題 ▼興味・関心の幅が狭く、個人差も多く見られる。

▼身近な自然、人や地域との関わりにおいて、自分事として捉えられていない児童が多い。

指導の重点（身に付けさせたい力）

◇学校生活や家庭生活の中で、様々な関心や意欲を高め、生活を豊かにしようとする力を育てる。

◇身近な人々や自然、地域社会などのよさや特徴、それらとの関わりに気付き、自分ができることを実践しようとする力を育てる。

◇自分のよさや、集団の中での自分の存在に気付き、互いの違いや個性を認め合いながら、自立していく力を育てる。

具体的な改善策

- 植物を育てる体験を通して、愛着をもったり、責任感をもって大切にお世話したりできるようにする。
- 校内の豊かな自然や生き物に触れる活動を通して、四季の変化や、季節によって生活の様子が変わること気付けるようにする。
- タブレットを活用して、写真や短い言葉で記録に残したり、情報収集をしたりして、発表ノートやシンプルプレゼン等で、分かったことが共有できるようにする。
- 1年生や他学年との交流を通して、集団の一員であることを認識し、2年生としての自覚を高める。
- 生活科見学を通して、地域の人々や環境などに親しみをもち、適切に接したり、安全に生活したりできるようにする。
- 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、出来るようになったことが増えたことに自信をもち、支えてくれている人々に感謝の気持ちがもてるようにする。

達成目標

- 学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気付き、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。
- 身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。
- 自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活する。